

山根俊恵氏を講師としてお呼びした趣旨

今回は、家族支援で第一人者である山根俊恵氏をお呼びして、支援者として家族支援に携わるのであれば必ず家族に接することは避けられないので、如何に接することが最善か、家族には山根式伴走支援の実践を話して頂くことで、目から鱗が落ちるではないですが、親として意識のイノベーション（新しい捉え方）を感じていただき、親子の関係が改善される可能性を実感できる講話になると期待しています。

出来れば、精神障がい者・ひきこもりの家族に限らず、子育て・親の介護・孤立している家族など、あらゆる家族が支援されることで、親子関係が変わるということを、皆様に積極的に広めていただけることを望んでいます。親子関係が確執から良好な関係に変化するヒントがあると思えます。

以下は、山根氏の地域支援・家族支援に関する実践のエッセンスです。

山根俊恵氏は、山口大学名誉教授であり、精神看護学を専門とする研究者です。

2005年にはNPO法人「ふらっとコミュニティ」を設立し、地域に暮らす精神障がい者やひきこもりの当事者、そしてその家族を対象とした支援を精力的に展開されています。

山根氏の支援の根底には、「家族が安心できると、本人の生活も良い方向に進む」という確かな信念があります。精神疾患やひきこもりの背景には、家族の孤立や戸惑い、支援の不足といった問題が複雑に絡んでおり、当事者支援と同時に家族支援を行うことが欠かせないと山根氏は考えます。

ふらっとコミュニティでは、地域における居場所づくり、相談支援、アウトリーチ、社会参加支援など、多様なアプローチを展開しています。特に注目されているのが「家族心理教育プログラム」の導入です。これは、精神疾患への理解や、家族としての関わり方を学ぶ機会を提供し、家族自身が支援の担い手となれるように支えるものです。

また、山根氏は、支援の入り口から出口までを一体的に行う「伴走型支援」を重視しています。第1段階（出会いと信頼の構築）から始まり、第2段階（状況の整理）、第3段階（小さな変化の支え）、第4段階（社会との再接続）へと丁寧に段階を踏みながら、家族とともに支援を進めます。他機関に丸投げせず、関係性を大切にしながら支援の積み重ねが、本人の変化と地域の理解促進にもつながっています。

山根氏の取り組みは、制度の狭間で孤立しがちな家族に光をあて、支援の新たな可能性を地域社会に広げています。